

ししぶやまきょうづつ 鹿部山経筒

古賀市^{ししぶ}鹿部に鹿部山があります。鹿部山は元来典型的な^{みかみやま}三上山で、三つの峰からなる美しい姿をした山でした。中の峰 65.3 m を主峰に東の峰 57 m、西の峰 56.4 m の「^{さんぼう}三峰の^{れいざん}霊山」とされていましたが、団地の造成により現在は西の峰を残すだけとなりました。

鹿部山は弥生時代の遺跡の存在が知られていましたが、昭和 47 年（1972）7 月、現在の花鶴丘団地開発の時、鹿部山とその周辺の発掘調査が行われ弥生時代から古墳時代にかけての遺跡が確認されました。

経筒は、鹿部山の「中の峰」の頂部の^{きょうづか}経塚に埋納されてきました。

昭和 46 年（1971）2 月に出土したものです。

経筒の形態は

^{ちゅうどうせいゆうせつきょうづつ}
鋳銅製有節経筒

直径 10 cm 厚さ 1.5 mm 高さは 22.6 cm（蓋をかぶせると 26 cm）

経筒には席内院・父々夫峯や金主吉野常元・願主僧良意及び^{えいきゅう}永久元年（1113）11 月 8 日供養が終了したことなどの銘文があります。銘文は錐のような先端の^{きり}とがった道具で点を刻み、その連続で文字としています。経筒は石製外容器の中に納められており、一緒に^{せいじこうす}青磁合子・^{せいはいくじざら}青白磁皿・木製玉 1、ガラス玉 4 の数珠も出土しました。

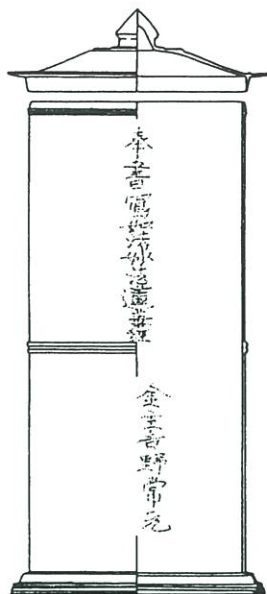
▼鹿部山経塚出土品 平成 14 年 12 月 10 日 市指定文化財



経筒



青磁合子と青白磁皿



經筒銘

筑前国席内院
父々夫峯
奉書寫經法妙法蓮華經
永久元年十一月八日
一部八卷供養既了

願主僧良意
金主吉野常元

経筒銘文実測図

筑前国席内院」。
父々夫峯」
奉書写如法妙法蓮華經」
永久元年改元十一月八日」
一部八卷供養既了」

願主僧良意」
金主吉野常元」

席内院 …………… 『和名抄』(承平年間(931～937)に成立)に「筑前国席内牟之路宇知」と表記されます。席内院の名は「太宰府天満宮文書」の中の『安楽寺注進目録』(観応3年(1352)の奥書)に「席内院重久名」「席内院清里名」とあり、天満宮安楽寺の荘園でした。

この経筒の銘により、この地が「席内院」と明確になりました。
席内院は裏槽屋から宗像の一部にかけての地域だと考えられます。

父々夫峯 …………… 現在の鹿部山のこと。シシブはチチブが変化したものだともいわれています。

如法 …………… 一定の正しい法式にしたがってきょうもん経文特にほっけきょう法華經をしょしゃ書写し埋納することをいいます。

妙法蓮華經八卷………… 法華經の全卷ということですが。

僧良意………… 太宰府市のかんぜおんじ観世音寺の高僧です。



三上山の時の鹿部山

